

会 議 録

会議の名称	令和6年度 第2回西東京市環境審議会
開催日時	令和6年10月23日(水) 午後5時から午後6時まで
開催場所	西東京市役所田無庁舎3階庁議室
出席者	<p>【委員】 宇賀神委員(◎)、矢守委員(○)、岡本委員、田村委員、花房委員、日野委員、真中委員、吉田委員 ※◎：会長、○：副会長</p> <p>【事務局】 中澤みどり環境部環境保全課長、福井みどり環境部環境保全課環境保全係長、三城みどり環境部環境保全課環境保全係主査</p> <p>【傍聴人】 なし 【欠席者】 伊藤委員、浅加委員</p>
議 題	<p>議事</p> <p>(1) 令和6年度第1回西東京市環境審議会会議録(案)の確認について</p> <p>(2) 第3回にしとうきょう環境アワードの選考について</p> <p>(3) その他</p>
会議資料の名称	<p>資料1 令和6年度第1回西東京市環境審議会会議録(案)</p> <p>資料2 第3回にしとうきょう環境アワード応募者一覧及び活動実績調書(個別票)</p> <p>参考資料 にしとうきょう環境アワード(概要)</p>
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会 議 内 容	
<p>< 1 開会 ></p> <p>(事務局より出欠席者及び傍聴希望者、配布資料の確認)</p> <p>< 2 議事 ></p> <p>(1) 令和6年度第1回西東京市環境審議会会議録(案)の確認について</p> <p>○会 長： それでは、これより議題に入ります。議題(1)第1回西東京市環境審議会会議録(案)の確認について、事務局の説明を求めます。</p> <p>(事務局より、会議録について説明)</p> <p>○会 長： 今、事務局より説明がありましたが、修正等があれば挙手をお願いします。</p> <p>(挙手なし)</p> <p>○会 長： なければ会議録についてご承認いただいたということでよろしいですか。異議なしと認め、会議録については承認しました。</p>	

(2) 第3回にしとうきょう環境アワードの選考について

- 会 長：それでは、議題（2）第3回にしとうきょう環境アワードの選考について、事務局より説明を求めます。
- 事務局：事務局の案といたしましては、選考基準からして不適合なものは無く、全21件を表彰させていただきたい方向と考えており、内2件に企画賞を、その他19件に奨励賞の授与を提案させていただきます。

（その他配布資料説明）

- 会 長：事務局からの説明に対して、意見、質問等がありますか。
- 委 員：昨年度の申請件数はどのくらいですか。
- 事務局：14件です。
- 委 員：14件ですね。それに比べて21件はものすごく増え、本当に良かったと思います。申請について全て表彰するという方向もよいと思っています。参考資料のにしとうきょう環境アワードの概要について、一点だけ可能であれば提案させてもらいたいと思います。環境アワードの実施目的にも書いてあるのですが、環境アワードに申請してもらうということで、市民の方々に環境に対する意識を向上させるということが1番の目的だと思います。その基本路線として、これまではゼロカーボン関連の活動が中心に評価されてきて、このような環境アワードが進んできたように思います。実際に表彰の範囲で1番目については省エネ関係、2番は緑の保全・緑化、3番目は廃棄物の減量化など書かれているのですが、この表彰範囲の中に例えば美化活動・生物多様性の保護などそういうものも組み込んだら良いのではないかとというのが提案です。今回の応募者の中に美化とか生物多様性の保護に関わるような活動もあるので、応募数をもっと増やす、広い意味での環境というものを取り上げるためにも、ちょっと広めに表彰範囲に入れられたら良いのではないかと思います。
- 会 長：委員から話のとおり、こういった美化や生物多様性というのは環境全体で見れば大切なことですので、皆さんの意見をいただければと思いますがいかがでしょう。
- 委 員：生物多様性に関しては、国家戦略や西東京市の計画の中にもそれに基づいた活動ということがしっかり盛り込んでいます。あと21番（保谷高等学校）は、廃棄物の減量化やリサイクルの推進という表彰の範囲になっています。確かに、生物多様性というところでピックアップするにはふさわしいカテゴリーにはなりきれてないのかもしれないという点を考えると、生物多様性に関する注目を集めるためにもカテゴリーを追加することに関しては賛成です。
- 委 員：今、21番の話があったと思いますが、私も実際にこのボランティア活動に参加したことがあります。まさに生物多様性といったところで、私の恩師

が50年前に保谷高校に生徒として在学していた方で、その時は石神井川には蛍がいたそうです。今は蛍はいなくて、この活動の大きな目的はその蛍をまた戻せたらと言っていましたので、まさにその生物多様性というところにピックアップをしてもらいたいです。

○会 長： 事務局としてはいかがでしょうか。

○事務局： 環境アワードは、市が令和4年2月にゼロカーボンシティ宣言をし、ゼロカーボンシティを実現するための気運醸成として、つまり地球温暖化対策というところで始まったものです。ただ、実際には生物多様性ないし美化という活動にも応募があります。市では、環境に関する表彰をするのはこの環境アワード一つしかなく、やはり良いことをやっていただいているので、できれば皆さんにこれを知ってもらうため表彰をしたいという事務局側の意図もございます。理事者等の意見を踏まえながら、今後について検討してまいりたいと考えています。

○会 長： 他に無ければ、事務局意見のとおり、これから検討していくという形よろしいでしょうか。他にご意見等ございますか。

○委 員 この環境アワードは3年目と伺っています。印象としては学校の応募が多いかと思っておりますが、学校がこれで全て網羅しているわけではないと思うので、どの程度浸透しているのでしょうか。また、できるだけ皆さんに環境に意識を持ってもらいたいというのが第1の目的だとすると、どれくらい浸透しているのか、どういうふうな広報をされているのか、あるいはそういう普及活動をするような事務局の体制があるのか聞きたいです。

○事務局： 今回のアワードの募集は市報・HPやSNS、市内掲示板にポスターを貼りました。学校については教育委員会の校長会で周知をいたしました。市内高等学校・大学にも周知をしております。また、事業者には商工会を通じて1,700枚ほどチラシを配布いたしました。

学校への浸透については、半分ほどの学校が応募しています。同じ活動もありますが、児童生徒が代わってその取り組みを続けていくことで、子どもたちにはかなり環境活動の普及は行われていると思います。

活動を広めるという点のところでございますが、全ての活動に対して取材というのは、なかなかできておりません。1年2団体程度取材をし、市ホームページに掲載しています。また、11月に市民まつりにて環境アワード授賞式を行っていますが、市民まつりと同時開催する環境フェスティバルにおいて、今回の活動実績調書をベースに1団体A4サイズのパネルにて展示し、市民に見ていただきたいということを考えております。

○委 員： 続けて表彰されている人は奨励賞で、初めての人は企画賞なのですか。

○事務局： 続けて表彰される場合は、企画賞ではなく奨励賞になります。今年初めてであっても例えばその斬新なものとはまでは言えないというのは奨励賞という形になります。

○委員： しっかり深掘りしてあげられれば、そのことによって次の応募が増えてくると思います。それから、環境に良い仕事をするのが本来業務である場合もあり、遠慮して本来業務だから応募が出せないなっているのがあると思います。

また、本来業務ではないが、付加価値として環境に優しい何かをやっているケースもあると思います。付加価値として活動をしている団体も応募しても良いのかなと思います。

○委員： 今2点のことがあったと思うのですが、一つは学校と事業者の比率は、圧倒的に学校が多いです。今年度も事業者は1件で、表彰範囲は省エネ・再生エネであり、個人、グループではなかなか手がつけられない部門だと思います。事業者になると、支社単位よりも本社単位・会社単位でこれやりなさいといわれている部分も結構あると思います。

それともう一つは、応募から表彰のレスポンスの件です。応募いただいて、次は表彰ですよとなるとコミュニケーションが中々取れないのではないかと感じています。確認の意味でレスポンスするとか、あるいは逆の意味で、もうちょっと深く活動してください的なことでも良いと思います。

○会長： まず、事業者に対する評価として、普通にやっている仕事と付加価値としての評価という話の一つあるということと、二つ目はレスポンス、要はどんな評価をしましたという反応をするということです。ご意見のとおりのところもあると思いますので、もう一つ議論を深めていく方が良いと思います。

○委員： 学校でいうと、校長会で周知して、これだけ集まってきているが、校長会でこの学校がこういう活動で企画賞、奨励賞を取りましたということを校長会でフィードバックしていますか。

○事務局： 校長会でフィードバックはしてはいないです。

○委員： 企画賞は、真似してもらいたいというのがありますが、地道な取組もありなのだとことを校長先生が理解し、子どもたちに啓発することも良いのではないかと考えます。小中学校では15,000人くらい子どもがいますが、賞を取る取らないではないところであっても、大きな影響を与えることができると思います。こういうことでも良いんだ、こういうところで環境に役立つ、と考える子どもを一人でも増やすという意味でフィードバックしても良いと思います。

○委員： 省エネルギー、再生可能エネルギー導入の普及が非常に少ないと思います。No.1は事業者の方で、省エネ家電とか節電機器とかハード系の対策に集中していて、私この分野で仕事して思うのですが、世の中の的にこれってハードな話だと思われているところが結構あります。でも、実際はかなり生活行動のところで工夫できることは沢山あると思っていて、例えばこん

なのも省エネなんだよっていうことを教えてあげると、もうちょっと一般部門で増えてくると思っています。

○事務局： いただいたご意見について、実行できるものは実行していきたいと思っています。過去の議論では、まずいわゆる順位をつけるような賞をすると、何故これを1位にしたのか説明責任が求められてくると厳しいという意見もありました。なるべく順位の色が付かないようなところを踏まえつつも、昨年度企画賞を作りました。

また、事業者に対する付加価値として評価をするところは、過去は議論がありませんでした。このNo.1の会社は去年も受賞していますが、このオーナーがただその機材を売るだけでなく、情熱を持って、お客さんに省エネに関して力を入れ、営業を行っています。また、住宅の方にも手を広げているということで今回も表彰をするという形となりました。委員の発言のとおり、機器だけの問題ではありません。それがハードというのであれば、クールビズ・ウォームビズはソフトの面、人の行動の面だと考えていますので、そのようなものも表彰する方が良いと考えております。ただ、もしクールビズ・ウォームビズをやって表彰する時にすごい数の応募があるかもしれない。その時にどう選別するかは考えておかななくてはいけないので、その一つで表彰するのはなかなか厳しいと思っております。

○委員： No.1の方は、機器を沢山売っているということが強調されていますが、どちらかというとそのモチベーションの方で表彰してあげるなど何かフォーカスを当てられると良いと思いました。ハードのものはいくら環境に良いですよって言ったところでなかなか売れるものではないので、だから熱い想いがあって伝わっていくと売れる面もあるんだと思います。

○会長： やはり、中小事業者も含めて機運を高めるのがベストだと思いますので、しばらく今の評価はそのまま置いて、応募が沢山になって濃淡がつけられないという話になれば、そこでしっかりと皆さんで審議させていただくことで良いと思いました。

活動を紹介するのは、今から少し考えればできる話だと思います。あとの評価のところは中々選考が難しいと考えました。

○委員： PRについては、市役所は下手であると言われていて、こういう自由な議論の場でこういうことをしたら良いという提案があったら、多分市の方にとってはすごくありがたいことだと思います。

○委員： まず応募数を増やしたいという話が1つ目と、2つ目に賞をとることがインセンティブであるというのが一つだと思います。3つ目としてその賞をとったことで地域に対して非常に貢献している企業、団体であるということを広く広報できるという、この3段階で考える必要があると思いましたが、みんな賞が取れるというのはすごく良く、現状はこれで良いとは思いますが、これが20回、30回となってくると学校の先生もまた書かなきゃいけないのか、去年と同じで良いという風になってきたりすると、どこかで考えなきゃいけない時が来ると思います。

3つ目に企業広報の点で、私は結構駅を使うので駅のディスプレイ、アンテナショップみたいなのは目に付くので、あそこに環境アワードの表彰があったりすると非常にメリットにはなると思いました。

○委員： 私も民間出身なので、そういう賞じゃないが何か認められたものがあると、営業に利用したいと思う。そういうのは企業の戦略の一つとして、それに乗るといふ手もあると思う。

○委員： 今、公民館の農業講座を受講していますが、西東京市はやっぱり農業が環境保全にも、あるいは防災の観点からも役に立っています。また、今回の企画賞の大森麻衣さん、その他の団体さんも、様々な社会課題に挑戦をしている感じがします。

○委員： 国の環境基本計画で一番にウェルビーイングが上がったことはすごく大きな話だと思います。今までは環境問題っていうのはあくまで環境の話だったところがありましたが、ウェルビーイングを満たすということをすごく強調されることになっています。専門家の方とも話をしていると、ウェルビーイングを満たす生活を実現させる手段として、脱炭素の手段を使うというような、脱炭素のためにやるっていうよりはあくまでそれはウェルビーイングに繋がるものという、そういう意味で大森麻衣さんの活動は非常に貴重なものと思いました。

○会長： 事務局から企画賞案として2件ありますが、この以外にもあればご意見いただきたいと思います。

○委員： No.19の青嵐中のマイクロプラスチックストーリーの映画に関して、企画賞としてふさわしいと感じました。

○会長： ここは企画賞に繰り上げるってことでよろしいですか。

(委員：了承)

○委員： 企画賞の田無第三中学校ですが、エコキャップの集め方がちょっと工夫がされていてすごいおもしろかったのですが、他にもエコキャップを集める学校があると思いますが、こんな集め方しておもしろかったよっていうのを教えてあげると促進されると思います。

○会長： そういった意味では様々なご意見もあるし、もっと深掘りした方が私も良いと思います。少なくともこの今回応募されたものをどうやって広めていくかを事務局でも検討していただいて、委員皆さんでも案がお持ちでしたら事務局に情報提供すると良いと思います。

○委員： 応募を受けた時にどれくらいの人に関わって、どのくらいの影響力があるのだろうという量的なものがあると、選考の時に影響力が高そうと見れるものはあると思います。数字で見る量とアイデアの質があると思います。

実は取り組む自体が尊いことなので、考えるベクトルとなると数字が知りたくはなると思ったところです。

○委員： No.21ですが、委員から実際は長い年月をかけてやっているものだと聞いて、これはやはりプレゼン力に寄っているところがあると思いました。調書の書き方も工夫できるようなガイダンスがあると良いと思います。

○委員： 数値化は大事とっていて、例えばゴミを拾ったらすごい量になるし、すごい効果で、一般の人に対してもこんなに拾ってくれているんだ、むしろそんなにゴミがあるのかということにもなると思います。何人が関わっている、毎日どれくらい活動しているところもそうですね。申請書に書いてもらおうと良いかもしれないです。

○委員： No.14の柳沢小学校は、生物多様性を目的として環境教育をされている感じがして、ここと例えば保谷高校などが結びついたりするとすごく良い環境学習ができると思いました。生物多様性の観点は、評価に入れると先程ご意見いただいたので、広がると思います。

○委員： 農業されている方もやっぱり作物栽培することで訪花昆虫が来るという多面的な効果があるので、どこまで表彰の範囲を広げるかは検討した方が良いと思いました。環境基本計画にも農地の話が載っているので、基本的に計画に載っていることは含めても良い気がしてきました。

○委員： No.16の田無第一中学校は、給食の廃油から石鹼を作るのはすごいと思います。しかも授業の中でそれを行うのはすごいなと思いました。どこの学校もこういう取組はやっていないと思います。

○会長： 表彰の仕方、評価の仕方をいろいろと意見をいただいたので、事務局で整理していただきたいです。色々な手段で広報いただくとともに、我々で何か案があれば、事務局に情報提供しましょう。あと調書についても、来年度以降変更いただく話がありました。検討いただきたいと思います。

(3) その他

○会長： 事務局の方からありますか。

○事務局： 第3回環境審議会の確認になります。次回は、第2次環境計画の最終年度の施策の進捗状況の報告等を予定しております。候補日といたしましては、来年の1月中旬頃と考えております。

< 3 開会 >

○会長： それでは以上となります。お疲れ様でした。